Ikiiki Maebashi Jin
いきいきまえばし人

# ドッジボールの楽しさを詩に

若い芽のポエムで美棹賞
横山駿介さん・11歳
西片貝町一丁目

全国の小学生から高校生までを対象とした詩のコンクール「第18回詩のまちまえばし若い芽のポエム」小学生の部で美棹（みさお）賞を受賞した。初めての応募だったが1万件を超える作品の中での最高賞だ。（関連記事・本紙7ページ）

「実は留守番電話で受賞を知ったのですが、その時は学校で1番なのかなと思いました。後になって全国で一番と知りびっくりしました」

タイトルは「ドッジボール」。担任の先生からのアドバイスで、学校ではやっていることをテーマにしたという。ドッジボールをしている時の横山さんの感情が変化していく様子が率直に描かれている。

「伝えたい言葉は繰り返して使うなどして強調することを心掛けました」

学校での自主学習の時間では詩や俳句、短歌などに取り組んでいる。また、生物に関する本を好んで読んでいるという。

「深海生物をはじめ、さまざまな生き物の不思議な生態に興味を持っています」

現在、桂萱小5年生。放課後や休日はサッカーに熱中。長距離走では、過去に2度学年で1番になるほどのスポーツマンだ。将来の夢はまだしっかりとイメージできていないというが、横山さんの未来には無限の可能性が広がっていそうだ。

アーツ前橋 ARTS MAEBASHI Vol.6

# 私とアーツ前橋

この連載では、市民に寄稿してもらい、さまざまな角度でアーツ前橋を紹介します。第6回は、開催中の展覧会「服の記憶―私の服は誰のもの？」の制作協力者で、前橋文化服装専門学校1年の星野楓さんです。

## 服飾でアーツに関わりたい

星野　楓さん・19歳

今回、前橋市収蔵品の中村節也さんの作品「弾琴」に描かれている服の制作に携わりました。縫い方や柄など、どう表現したら絵に近い服になるのか、普段の学校での授業とは違った観点から制作に取り掛かりました。

まず、どこの国の服なのかを調べましたが、思い描くイメージのものが見つからず、最終的にはみんなで考えて色鮮やかに仕上げることに。柄を生地に描くのはとても大変で、画材選びや規則的に一つ一つ格子柄を描くこと、にじまないようにすることなどに注意しました。服の袖や襟以外は、絵に合わせて柄を描き、生地を1枚1枚縫い合わせて作りました。時間はかかりましたが、達成感がありました。

今回は1年生有志と専攻科生との共同制作。専攻科は刺しゅうで柄を表現していて、仕上がりに刺激を受けました。制作に関わった人のイメージや思いの詰まった作品になったと思います。

この制作は、アーツ前橋の活動を知る良いきっかけになりました。今後もファッションで関わっていきたいです。

問い合わせは
アーツ前橋　☎027―230―1144



クローズアップ CLOSE UP

## 多彩な自転車の祭典

9月28日に、まえばし赤城山ヒルクライム大会を開催。県内外から3,100人もの参加者が、赤城山の山頂目指して標高差1,313mを駆け上がりました。また、前日には全国的にも珍しい専用コースでのシクロクロス大会も行われ、多彩な自転車の祭典に前橋が沸きました。

大会前日のタウンミーティングで自転車について語る山本市長